

# 令和5年度施政方針

人・自然・びわ湖、みんなが幸せなサステナブルなまちづくり

3月2日に開催された市議会3月定例会月会議で、市長が述べた内容(概要)をお伝えします。  
 なお、全文は市ホームページに掲載しています。



ホームページ

## はじめに

東京2020オリンピック・パラリンピックにおいて、本市がパラリンピック選手団のホストタウンとなっていたトルコで、2月6日に大地震が発生しました。本市では、発生翌日に駐日トルコ共和国大使館特命全権大使宛てに市長・市議会議長の連名で、亡くなられた方への弔意と被災された方々のお見舞いと、一日も早い復興を祈念するメッセージをお届けし、大使からは謝意が伝えられました。

また、2月13日から市内12カ所の公共施設に募金箱を設置し、広く市民に支援を呼びかける中、市議会議員、職員もすでにトルコ大使館を通じ寄付をし、市内小中学生も学校や駅前での街頭募金を行うなど支援活動が進められています。

発生から約ひと月がたち死者が5万人を超える中、大半の捜索活動が終了すると報道されていますが、トルコ出身で「もーりー守山ふるさと大使」である藤田ウステュネル・ギユネンさんは、「この時期はとても寒く、服やガソリンのほか、乳幼児や女性の日用品が不足している。金銭的な援助を」と訴えています。改めて亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、冬季厳しい環境の被災地の

一刻も早い復旧・復興を引き続き支援していきます。

私は、今回の市長選挙に際して、多くの市民の皆さまから支援を頂き、当選することができました。活力ある守山市の舵取り役を任されることの重責を、日に日に強く感じており、身の引き締まる思いです。

市民の皆さまからの力強い支援に心から感謝申し上げますとともに、皆さまからの期待をしっかりと受け止め、市政の諸課題の解決と守山のより良いまちづくりを進め、仕事で結果を残すことで、期待に応えたいと考えています。

なお、今回の選挙が無投票となったことから、私の政策や人となりなどを市民の皆さまに訴え、意見交換をし、意見を賜る機会が限られることとなりました。このことを真摯に受け止めて、無投票であったからこそ、より一層、多くの市民の皆さまと幅広く対話を重ね、各団体などの声に耳を傾け、市政に反映していきます。

# まちづくりの基本方針

このまちを良くしたい、という思いをもって活発に活動する市民や団体が多く、行政、事業者、各種団体、市民の皆さまがスクラムを組んで「まちを良くしたい」という目的のために連携してまちづくりができて、活力のあるまち、それが守山だと思います。

守山なら、降りかかるさまざまな課題に対して、「10年後、20年後を見据えて、人・自然・びわ湖、みんなが幸せなサステナブルなまちづくり」ができる。日本のモデルとなるような、守山の新時代を築くことができる、と確信しています。

そのためには、「伸ばす」施策は、スピード感をもって迅速に取り組んでいく。片や、困難を抱えている市民の皆さまに「寄り添う」施策は、現場の声をしっかりと聞き、時にスピード感をもって、時にじっくり長期的視点で取り組んでいくことを市政運営の基本とします。

これを実現するため、①徹底現場主義、②変えることを恐れない、③積極的な連携・コラボを私自身と職員の姿勢としたことを考えます。

## ◆徹底現場主義

答えは現場にある。まずは現場に行き、現場のニーズを把握することから始まります。市職員も、仕事は増えるのに人は増えない、という中で現場に出たくても出られない、もどかしい状況にあります。自治体DXの推進などにより事務作業の負担を軽減し、産休育休取得職員のフォロー体制強化などにより、職員が現場に出やすい環境づくりに努めます。

## ◆変えることを恐れない

変化のスピードが速く、技術・サービスの進歩が目覚ましい時代にあつて、行政も変えることを恐れることなく、守るべきものは守ったうえで、変えていく、新しいものにチャレンジしていく。まず「できない」と思うのではなく、「どうしたらできるのか」というアプローチをする姿勢を貫きます。

## ◆積極的な連携・コラボ

行政の縦割り打破が長年うたわれ、市としても心掛けていくはずですし、重層的な支援体制整備事業や圏域地域包括支援センターの開設により、相談体制が充実

してきています。

しかし、残念ながら、「市役所の縦割りをなんとかしてくれ」という声をよく聞きます。行政は、所管する仕事が決まっていることもあり、縦割りになることは一定、仕方ありませんが、課題に気づいたとき、困っている人や団体を知ったとき、「たまたまその課題や困りごとが自分の仕事である」という可能性はむしろ少ないと思います。

そのようなとき、他の部署や他の団体

との連携や紹介などで、なんとか解決策を導く「おせっかい」が求められます。今日はお願いする立場であっても、明日はお願いされるかもしれませんので「お互いさま」です。「おせっかい」と「お互いさま」の心で、市役所内の縦割りを排除していきたいと思っています。

また、国や県、県内市町、また、民間企業や各種団体と今まで築いてきた「つながり」を活かして積極的な連携・コラボを進めてまいります。



# 柱1

## 重点施策の方針

# 子育てをすすめるなら守山！

本市は人口増加が続き、まちじゅうで子どもをみかける若いまちですが、合計特殊出生率は令和2年で1・63にすぎないことから、子育て世代の負担軽減などを進め、守山で子どもを産み・育てたいという機運をもっともっと高めていく必要があります。

### ◆子ども医療費助成の対象者の拡大・妊産婦支援の充実

子育て世代からの要望の強い、子ども医療費無償化の拡大について、財政状況

も踏まえつつ、早急に検討を進めます。また、産前産後の母親の負担軽減のため、妊産婦支援の充実についても、検討を進めます。

### ◆困難な状況にある子どもへの対応

コロナ前と比べて、不登校の子どもたちが倍増しています。また、ヤングケアラーについて丁寧な対応が必要ですが、本人たちも「ヤングケアラーである」と認識していないケースも多いと聞きます。そのため、学校や地域、社会福祉協議会などと連携して、不登校児やヤングケアラー、引きこもりなど困難な状況にある子どもの実態把握に努めたうえで、どのような対応ができるのか、検討します。

### ◆子どもたちの教育

令和5年度まで計画期間を延長した第2期守山市教育行政大綱に基つき、子どもの「生きる力」を育み、子どもの

育ちを支える教育環境を整えます。そのためにも、引き続きスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、やすぎ支援相談員などの配置継続・拡充に加え、小中学校の老朽化対策や修繕

ICTの活用による教職員の負担軽減、地域と学校の協働活動の推進などに取り組みます。





# 住むなら守山！

高齢者も、障害者も、生活に困難を抱えている人も、そつでない人も、だれもが住み慣れた地域でいきいきと暮らしていけるまちづくりが理想だと考えます。

そのためには、医療、介護、福祉、それぞれの分野で制度にのっとった安定的なサービス提供が重要であり、さらに、医療、介護、福祉の一層の連携・強化をしていく必要があります。加えて、複雑・複合化する地域課題に対応するため、家族まるごとの相談支援体制の充実など重層的支援を効果的に展開し、地域共生社会の実現に向けて取り組みます。

◆地域の移動手段の確保

免許証を返納された高齢者などの移動手段の確保のため、既存バス路線の維持・充実を基本としつつ、これを補完する移動手段としてデマンド乗合タクシー



シーモリーカー」の利用促進と運用改善を不断に行います。

◆激甚化する自然災害への対応

道路、河川などのインフラ整備について、国や県の整備が一層進むよう、市としてできる限りサポートし、要望を行うとともに、市管理の道路や河川、上下水道などの整備促進と適切な維持管理に努め、市民の安全安心を確保します。

◆消防団、自主防災組織の強化

活発な活動をしている守山市消防団は地域防災の要であり、処遇改善や若者・女性向けPRの強化など消防団員確保に取り組むとともに、国のモデル事業などを活用して、消防団や自主防災組織の災害対応力強化に努めます。



◆環境学習、カーボンニュートラルの推進

恵まれた環境を未来へつなぎ、自然を大切に子どもたちが育つまちを創りつづけるため、環境学習のさらなる充実を図るとともに、カーボンニュートラル実現のため、GX(グリーントランスフォーメーション)を推進し、GXに取り組む企業の支援も検討します。



◆自治体DXの推進

新庁舎の供用開始を契機に、窓口のスマート化やICT技術を活用した業務改革などに取り組みます。また、自治体DXを進め、市民の皆さまが行う各種手続きの電子化や自治会・各種団体の事務効率化などにICT技術を活用できるように、どのような支援ができるか、検討します。



### 柱3

#### 重点施策の方針

# 働くななら守山！

#### ◆JR守山駅東口と西口の一体的な活性化

東口のあり方全体、西口の渋滞対策やにぎわいづくりも含め、大きな議論をスピード感をもって行い、守山のさらなる発展につなげていく必要があります。さらに、村田製作所の研究開発拠点とのオープンイノベーションは、守山に立地する企業にとってもチャンスであり、新たな企業立地・ベンチャー企業の集積につなげたいと考えます。

#### ◆湖岸地域の活性化

琵琶湖をはじめとする豊かな自然環境や交通アクセス抜群の湖岸地域のポテンシャルを活かし、北部図書館の新規オープン、大型遊具の設置やカフェ、BBQコーナーの計画が進むびわこ地球市民の森、民間活力による道の駅構想の推進、木浜県有地におけるスポーツ拠点の整備など湖岸地域の活性化に取り組みます。

#### ◆企業立地、市内企業の再投資促進

優良企業の立地を進め、市内企業の再投資も促進し、税収確保に努めます。企業立地については、さまざまな制度を活

用し、守るべき農地はしっかり守ったうえで、開発適地の選定と民間企業のニーズにあった迅速な対応に努めます。

また、ポストコロナでの地域経済活動の促進では、市内商工業者の経営環境の確保や資金繰りへの対応など業況をお聞きする中、国や県の動向を注視するとともに、商工会議所と連携し伴走支援に取り組み、商工振興と雇用の維持を図ります。

#### ◆農業・漁業振興

新規就農支援をパッケージで行うとともに、モリヤマメロンの生産施設整備への支援などを進めます。商品開発やブ



ランド化、観光農園などのさまざまな創意工夫を後押しし、農業の活性化、魅力ある産業とする施策を農家の皆さんと一緒に考えます。

漁場における生産能力の回復、湖魚の消費拡大に向けた取り組みなど、琵琶湖の環境改善と漁業の振興に県と連携して取り組みます。



#### ◆人材確保対策

保育・医療・介護・福祉分野の人材確保対策について、現場の意見を聞きながら検討します。また、製造業やA・ICT分野などの人材不足対策として、野洲市において令和9年度の開校をめざす県立高等専門学校と市内企業との連携を強化し、優秀な高専卒業生が市内で就職してもらえるよう取り組みます。





# 柱4

## 重点施策の方針

# 市民が主役の守山！

### ◆地域の空洞化・空き家対策

これまで守山市は、高い自治会加入率に象徴される活発な自治会活動に支えられ発展してきました。引き続き、自治会を基盤としたまちづくりを支援し、コロナ禍により停滞していた活動を再生し、さらに発展していくためにも、空き家対策や規制緩和、地域での居場所づくりなど、地域の空洞化を食い止めて、担い手を確保する対策を市役所内でチームを作って検討します。

### ◆歴史、文化財保存

中山道沿いには、いまでも一里塚や古



民家が残り、市民の皆さまが街なみを大事に守ってこられました。また、風流踊としてユネスコ無形文化遺産に登録された小津神社・下新川神社の「近江のケンケト祭り長刀振り」をはじめとして、さまざまな祭りや民俗文化が継承されています。さらに、服部・下之郷・伊勢・下長に代表される、弥生前期・中期・後期そして古墳時代へと、各時代を代表する遺跡が同じ市内に存在するという、全国でもまれにみるまちでもあります。このような守山の歴史や文化財などを保存・活用していくことが必要です。11月の(仮称)伊勢遺跡史跡公園オープンを契機に、守山の歴史や文化財に触れる機会を作ります。

### ◆文化の香り高いまちづくり

子どもから大人までさまざまな文化・芸術を体験できるルシオールアート キッズフェスティバル、守山市民吹奏楽団、ユース・オーケストラなどの活発な音楽



活動、また、さまざまな芸術、文化活動を活発に行う団体が多く、市民活動としても芸術・文化活動が盛んなまちだと感じます。

現図書館や新たにオープンする北部図書館を積極的に活用し、読書日本一のまちづくりにつなげます。さらに、令和7



年開催の「わたSHIIGA輝く国スポ・障スポ」(第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会)に向けて、スポーツを通じたまちづくり・健康づくりに取り組む良いチャンスです。文化、芸術、スポーツなどを通じて、文化の香り高いまちづくりを進めてまいります。